

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより  
第13号  
2018(平成30)年1月26日  
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 10年のあゆみ — 皆様の声に励まされ —

H. A. M. A. 木綿庵(ゆうあん)が活動を開始して、ちょうど10周年の記念日を迎えました。当庵の設立は平成20年(2008)1月26日。不登校やひきこもり、うつなど心がうつむきがちな人々が少しでも心やすらぐ居場所でありたいと、「居場所づくり」をめざし、活動をつづけてきました。拠点には畑。そして、野菜や綿の栽培、綿の加工を通して、人や自然、社会やモノと関わる喜び、明日を楽しみに過ごす喜びを共にしたいと念じて取り組んできました。

- H20年(2008)01月26日 H. A. M. A. 木綿庵(ゆうあん)設立。ブログ開設。2月8日、1号畑に看板を設置。
- H20年(2008)05月05日 第1回種蒔き。3, 4号畑にて。友人一家4名の参加を得て実施。
- H21年(2009)01月25日 設立1周年。ホームページを開設。活動趣旨に賛同した友人による友情制作。
- H22年(2010)01月26日 設立2周年。看板をリニューアル。現在の説明板の原型ができあがる。
- H23年(2011)11月03日 初めての「公開収穫祭」を実施。綿繰り、糸紡ぎの実演も行う。14名参加。
- H25年(2013)11月03日 天理市文化遺産PJ天理ぐるぐる参画行事として「収穫祭」実施。3名参加。
- H26年(2014)11月02日 天理ぐるぐる参画行事として「収穫祭」実施。糸紡ぎの実演も行う。7名参加。
- H27年(2015)01月26日 設立7周年。HPをリニューアル。WEB環境の変化に対応するため業者に依頼。
- H27年(2015)11月01日 天理ぐるぐる参画行事として「収穫祭」実施。草木染めも行う。13名参加。
- H27年(2015)10月26日 利用者様からの要望を受けて、木綿庵の日本語版パンフレット(初版)を発行。
- H28年(2016)01月05日 天理大学附属天理参考館の2F常設展示室に、木綿庵の綿が展示される。
- H28年(2016)01月26日 設立8周年。利用者様からの要望を受けて地図入りパンフレット(2版)発行。
- H29年(2017)01月26日 設立9周年。機関紙『うひはたぶみ』創刊。
- H29年(2017)05月03日 第10回種蒔き。公開行事として糸紡ぎの実演も行う。19名参加。
- H29年(2017)11月03日 公開収穫祭。草木染めも行う。20名参加。
- H29年(2017)11月29日 『不登校・ひきこもりのためのハンドブック — 2017年版奈良県サポート団体・相談窓口一覧』(奈良教育大学次世代教員養成センター 学校・地域教育支援領域)に、H. A. M. A. 木綿庵(ゆうあん)が掲載される。
- H30年(2018)01月26日 設立10周年。木綿庵の英語版パンフレット(初版)を発行。

ここにはとても書ききれませんが、この10年の間に、多くの皆様との出会いを通して、私自身が導かれ、木綿庵をお育ていただいていたのだと感じずにはおれません。ほんとうに、ありがとうございました。

おかげさまで、皆様の声に励まされる形で、綿繰り・綿打ち・糸紡ぎ・草木染め・機織りと、綿の栽培から織り付けまでを木綿庵(自宅)の畑と作業場で、何とか出来るようになりました。これからも一人でも多くの方に喜んで頂けますよう、晴れ(Hare)の日も雨(Ame)の日も、前(Mae)を向いて歩(Ayu)んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



初めての機織り：自宅作業場にて

### Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成29年12月26日～平成30年1月25日)  
愛知県1、大阪府1、奈良県2、山口県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成29年12月26日～平成30年1月25日)

メールを含む各種相談件数7、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数0件0名



## 《綿の栽培記録 2017》 — 平成29年度版 その7 —

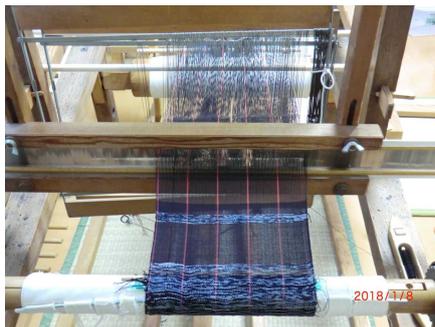
平成29年12月27日、年末恒例の「綿木引き」を行いました。天理参考館学芸員の中谷氏も記録を兼ねてお手伝い下さり、午前中で作業を終えることができました。なお、綿木引きの前に最後の綿摘みを行い、和綿64gを収穫しました。



## 〈初めての機織り — ストールを織り上げる —〉平成30年1月5日

整経は昨年秋。巻き取りドラムが無いために立ち往生していた「巻き取り」も、織機を譲って下さった玉城厚子氏のアドバイスによって一気にクリアすることができました。氏の曰く「大切なのは根本の原理を理解することです。正しい原理さえ踏まえておれば、道具や方法にとらわれる必要はありません。まずは『機を織る』仕組み、原理を学ぶつもりで、その原理に合うことだけを考えて、楽しみながら取り組んでください」と。「なるほど!」。このアドバイスをいただいて目からウロコが落ちました。自分なりに方法を工夫し、年末に巻き取り、綜統通し、箆通し、機掛けを終え、年が明けて平成30年1月5日、自宅作業場にて機の踏み初めを行いました。織り上げは1月10日。

※経緯糸ともに20/3の紡績糸。一部緋糸使用。経糸数210本。片羽。織幅22.5cm、長さ144.5cm。



### 【綿の加工の作業記録】（梅田1人の作業量）

- ・糸車を用いての糸紡ぎ量（洋綿）

12月26日～1月25日（作業実日数16日）糸の総量68.6g（18.29匁）総時間190分（3時間10分）

※1分間≒0.361g 1時間≒21.7g（5.8匁）

### 【研修等の記録】

- ・平成29年12月28日 玉城厚子氏を訪ね、機織りについてご教示頂く（京都市西京区）
- ・平成30年 1月19日 天理市立井戸堂小学校にて特別授業「『たぬきの糸車』の糸車」を担当
- ・平成30年 1月20日 タビオ奈良株式会社様の綿畑（8ヘクタール）を訪問、島田淳志氏にご案内頂く

【以下の写真は、左：玉城厚子氏と、中：井戸堂小学校での特別授業、右：タビオ奈良（株）さんの実綿干しの様子】

